

特集 special issue 防災の大切さと石木ダムの整備

～頻発する災害に備えて～

近年、豪雨による大規模な災害が全国各地で発生しています。
 本県でも、今年、大雨が発生しました。
 今回の特集では、こうした状況を踏まえ、
 現在、県が進めている石木ダムの建設について説明します。



※イメージ図

石木ダムの概要

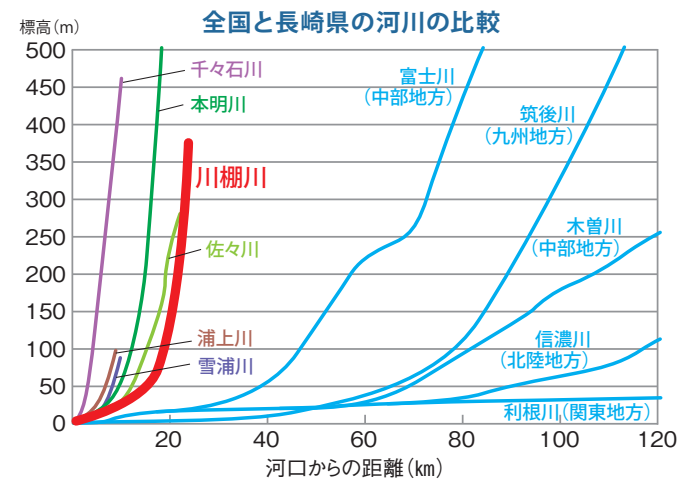
事業費	285億円
事業着手	昭和50年度
ダムの高さ	55.4m
ダムの長さ	234m
総貯水容量	548万立方メートル
事業進捗	58% (約166億円)

(平成28年3月末現在)



本県の河川の特徴

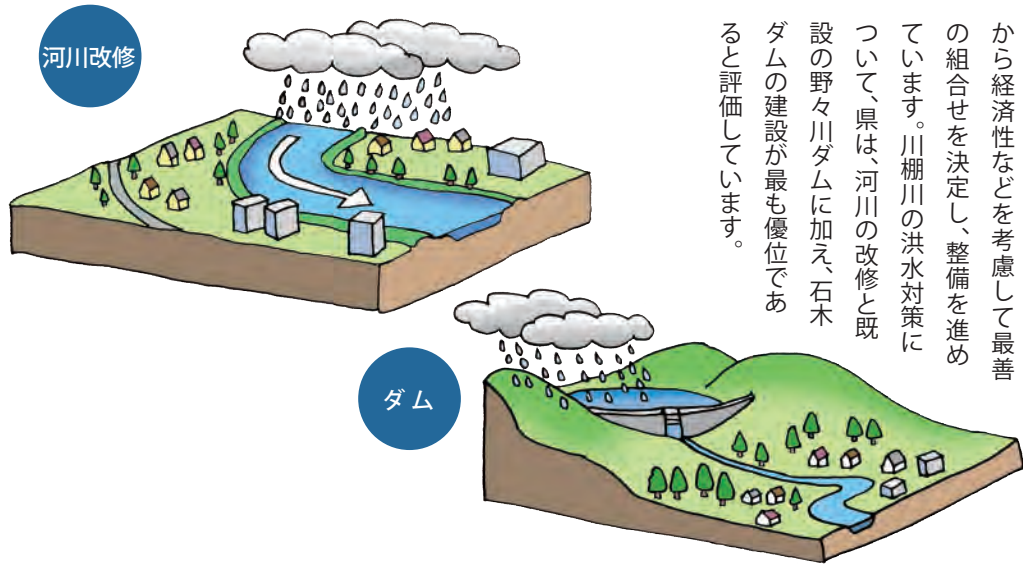
本県の河川の多くは、傾斜が急で山から海までの距離が短くなっています。
 そのため、大雨時には氾濫の危険性が高く、平常時には流れる水が少ないという特徴があり、川棚川も同様の状況にあります。
 このような要因もあり、過去に諫早水害や長崎大水害などの大規模災害が起こったり、平成6、7年の大渇水で水不足に悩まされたりしました。



川棚川の洪水対策

洪水への備えとしては、河川の改修や遊水地・放水路の整備、ダムの建設があります。県内の河川では、これらの方法から経済性などを考慮して最善の組合せを決定し、整備を進めています。川棚川の洪水対策について、県は、河川の改修と既設の野々川ダムに加え、石木ダムの建設が最も優位であると評価しています。

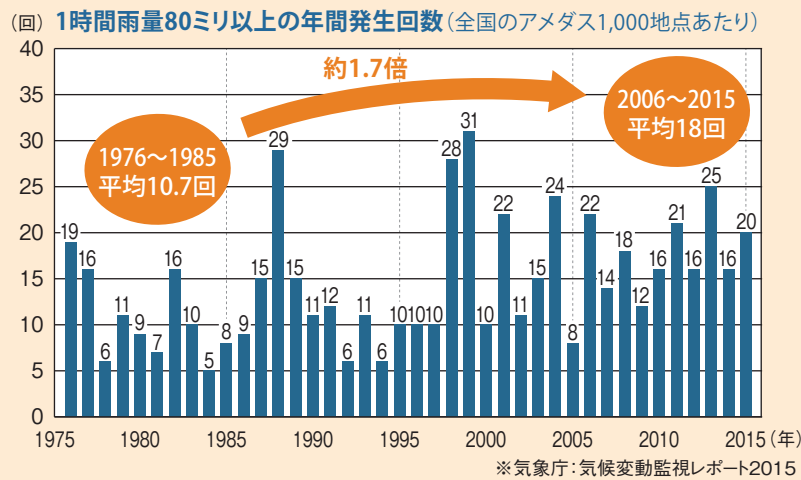
洪水処理の方法



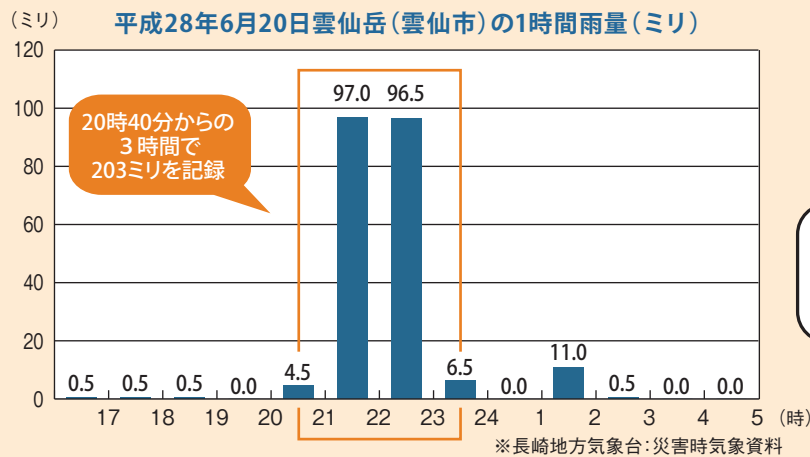
増加する短時間豪雨

水害の要因の一つに、短時間での集中的な大雨があります。1時間雨量80ミリ以上の「猛烈な雨」は年々増加傾向にあり、今年の6月には、長崎市で長崎大水害の集中的な大雨がありました。136ミリの雨が記録されました。(昭和57年に匹敵する1時間雨量) また、雲仙市では、6月の観測史上1位を更新する3時間雨量203ミリの雨が記録されました。

「猛烈な雨」は増加傾向



3時間雨量が6月の観測史上1位を更新



全国や県内で大雨による被害が頻発しとるけん、対策ばとらんばね。

